■基礎データ

|  |  |
| --- | --- |
| タイトル | 緊急地震速報による対応訓練（ショート訓練・抜き打ち訓練） |
| ねらい(学習目標) | １．緊急地震速報の事前学習を生かし、学校内の様々な場面において、緊急地震速報を聞いた時、自分の判断で自分の身を守る対応能力を向上させる  ２．緊急地震速報を予期せぬ状態（予告なし）で聞いた時も同じ行動がとれる |
| 対象学年 | 全般 |
| 教科・イベント等 | 対応行動訓練（授業時間・休み時間等） |
| 訓練形態 | ショート訓練（対応行動のみ・訓練時間を告知しない）　　　　　　　　　　　計５分 |
| 準備 | 緊急地震速報チャイム音、訓練用音源（※緊急地震速報チャイム音入手方法を参照）、  緊急地震速報訓練受信端末（訓練モード）、事後学習ワークシート「訓練をふりかえろう！」、その他（避難訓練で必要なもの） |

■学習の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 構成・内容 | 教職員の行動 | 児童の行動 |
| 1 緊急地震速報・対応行動訓練（2分） | | |
| 「緊急地震速報のチャム音（4回）→アナウンス『地震です。落ち着いて身を守ってください。』→地震の揺れの効果音（ガタガタガタ）」  ※緊急地震速報チャイム音、訓練用音源、緊急地震速報訓練端末など使用  ※抜き打ち訓練の場合は、訓練時間を告知しない | □児童のとるべき行動について、教師から指示を出さない  □机の下にもぐれない／上手く行動ができない児童には指示を与える  　※地震の揺れの効果音が流れるまでに行動させる  □配慮が必要な児童は、教師と一緒に行動する（補助する）  □出入口の確保等、教師のとるべき行動をとる  □教師も身を守る行動をとる | □緊急地震速報を認知し、自らの判断で「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所へ移動して身を守る  ※数秒から数十秒で行動する  □教室では、机の下にもぐり、机の脚を対角線にしっかりつかみ、揺れが収まるまで待つ  □教室以外では、その場に応じた退避行動をとる  ※だんごむしのポーズ |
| 2 訓練放送（3分） | | |
| 「訓練、訓練、訓練。緊急地震速報による訓練です。皆さん、自分の身を守る行動がとれましたか。これで訓練を終了します。」  ※抜き打ち訓練では以下を追加する  「地震は教室にいる時にだけ発生するとは限りません。いつどこにいても、自分で考え、安全な場所で身を守る行動をとってください。これで訓練を終了します。」 | □放送を受けて、近くにいる児童および安全確認（出入口、火の元、落下物等）を行う  □避難経路の確認を行う  □自力で避難できない児童の避難準備にも気を配る  □授業を再開する、教室へ戻る等、次の指示を与える | □引き続きその場で退避行動をとる  □教師や校内放送の指示を静かに聞く |
| 【推奨】訓練の振り返り　※事後指導・学習指導案を使用する | | |
| ※振り返りをする場合  「この後、教室で訓練の振り返りをしてください。」 | □事後学習ワークシートを記入させる  □児童に訓練の自己評価を発表させる | □自分の行動を振り返る |

■評価ポイント

|  |
| --- |
| 1. 緊急地震速報を聞いて、自分の判断で自分の身を守る対応行動がとれたか |
| 2. その場の状況に応じて、安全な場所への退避方法を考えることができたか |
| 3. 周りの状況を把握し、他者（低学年等）への声掛けや他者を支援（補助）する行動ができたか |
| 4. 緊急地震速報を予期せぬ状態（予告なし）で聞いた時も、同じ行動がとれたか |

■特記事項

|  |
| --- |
| ・ショート訓練は、校庭避難までの通常訓練とは異なり、対応行動の習得を目的した訓練 |
| ・ショート訓練は、短時間で実施でき、休み時間や掃除の時間などの活用で訓練回数を増やすことが可能 |
| ・訓練日時を周知しない「抜き打ち訓練」を効果的に利用することにより、訓練の形骸化を防止できる |
| ・本事前学習を初めとして「事前学習→実践訓練→事後学習」という学習プログラムで、緊急地震速報を用いた対応行動を学び・習うことができる |

【緊急地震速報チャイム音入手方法】

　・「緊急地震速報の受信時の報知音の音源提供について」緊急地震速報利用者協議会

<http://www.eewrk.org/eewrk_hochi-on/eewrk_hochi-on.html>

・「緊急地震速報の入手方法について」気象庁

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/katsuyou/receive.html>